

若林 ひろき 議員 (公明)

代表質問



政策や財政について

問 施政方針の「他者と区別されずにサービスを使える社会」は、財政の優先順位を含め、分断を和らげ連帯を生む仕組みづくりだと共感する。その考えをメッセージとして添え、分かち合いや連帯の輪を広げていただきたいが区の所見は。

答 施政方針の考え方と議員が掲げる「ベーシック・サービス」の考え方は軌を一にするものと認識する。全ての区民が所得にかかわらず必要なサービスを受けられるよう、きめ細かな施策を展開していく。

問 子育て支援について
保護者の仕事等の状況により、登校時間前に学校前で待機したり、朝食を取らなかつたりする児童が

いる。そのため、朝の児童の居場所の確保と、学校や子ども食堂での朝食支援を求めたが、取組は。

答 朝の居場所確保については1学期の早い時期から区立小学校3校でモデル事業を開始し、検証等の後秋頃を目途に全校展開を目指していく。朝食支援は、おにぎり等を無償で配布するほか、多くの子ども食堂で、地域と企業、区が連携し、翌朝の朝食を事前に配布する。

教育について

問 修学旅行等の校外体験活動費や中学生標準服の無償化を求め、昨年質疑を行ったが、その後の取組は。

答 令和7年度より修学旅行と中学校標準服の無償化を実施するための予算を計上した。

高齢者支援について

問 終活支援について、品川区社会福祉協議会の事業があるが、登録料等の負担が課題だ。今後の取組は。

答 品川区社会福祉協議会の「あんしんの3点セット」の初回契約手続支援料等を無償化するなど、区としての施策を拡充していく。

障がい児者支援について

問 デフリンピックは認知度向上が課題だ。様々な機会を捉え、区の挨拶に手話を取り入れてはいかがか。

答 有効と考え、イベント等の機会を捉え挨拶に手話を取り入れていく。

福祉について

問 大人も子どもも生活等に不安を感じた時点で即相談できる窓口等の存在を、さらに広く知らせては。

答 令和7年度より支え愛・ほっとステーションの相談員を順次増員し、高齢者だけでなく多世代に向けて展開していくため周知を図る。

健康について

問 医師会との検討等が進められてきた骨粗鬆症検診について、取組は。

答 まず出張型国保基本健診と同時に骨粗鬆症検診を試行実施する予定であり、その結果を医師会と十分に検証・検討した上で、区内医療機関での本格実施を目指していく。

居住支援について

問 高齢者の住まい支援は、住宅確保要配慮者とオーナー双方の安心確保の施策展開が必要だ。入居から退去までの支援強化の取組は。

答 居住サポート住宅認定制度開始や高齢者の残置物処分費用負担軽減等の予算を計上した。また、要配慮者が入居するセーフティネット住宅等の家主に対し、損害保険費用を区が負担する。

防災について

問 スファイア基準に準じ、トイレ、食事、ベッドや保健医療といった避難所の生活環境の整備を。

答 国の動向を踏まえ、TKBB（トイレ・食事・生活空間・生活用水）の視点から取組を進める。

防犯について

問 区が行っている防犯カメラ等の購入費用一部補助について、対象機器や補助額を拡大しては。

答 都が補助事業を開始すると聞いており、情報を把握しつつ検討する。

都市間交流について

問 昨年災害時相互援助協定を結んだ飯田市との関係性構築等の展開は。

答 リニア開業を見据え、住民同士の「顔の見える関係」をさらに深化させ、防災、産業など多様な分野での交流を推進していきたい。

平和について

問 被爆ピアノ平和コンサートの開催など、非核平和に向けた取組は。

答 次世代への非核平和に向けた取組と思いを絶やさず継承していくため、ご提案の被爆ピアノでの演奏会を令和7年度に実施予定であるほか、様々な手法を検討していく。

(その他の質問)
・子ども・若者の区政参加について
・人権について

代表質問

大倉 たかひろ 議員 (未来)



DXを活用した施策について

問 今後の東京ポイントおよびデジタル地域通貨へのブランドデザイン、および今後の行政施策への利用等の展開について見解は。

答 デジタル地域通貨への展開についてはデジタル商品券の運用状況や東京ポイントの動向等を注視しつつ、他の行政サービスへの活用等も含め引き続き研究を進める。

子ども子育てを支える取り組みについて

問 新中学1年生から旅行費用の積立てがなくなると聞いたが、令和7年度だけでなく、今後継続して続けるということでのいか。学校現場の声を聞き、物価高騰に応じた予算を増やしていくことがふさ

わしいと考えるが、区の見解は。

答 修学旅行の無償化について、令和8年度以降の実施については、費用等も含め検討していく。

問

中学校標準服の支給方法について、5年生から制服を変える学校があり、学校関係者や保護者からは、5年生からの支給を要望する声がある。より効率的に活用するため、柔軟な配付方法を要望する。区の見解は。

答

中学校の標準服の無償化について、現在、義務教育学校の対象学年を含め、実施方法等について検討を進めている。

問

朝の児童の居場所確保・朝食支援について伺う。利用は事前予約とするのか。担い手や方法については。朝食の調達、管理など実施方法は。予約制で食材が残らないようになるのか。家で朝食を食べて来ることができず子どもたちも、早くから学校に来てしまうということ懸念する声もある。朝早く家を出た子どもが無事に学校に着いているのかどうかという子どもの安全についても不安の声があるが、区の見解は。年度内に全校展開を目指すということだが、3校での試行から全校展開までの検証

から実施までのスケジュールは。

答 当事業は、児童の安心・安全を目的に実施するため、利用状況の適切な管理が必要ことから、事前登録制を導入する予定。運営は委託を予定し、自学学習等の見守りを行う。朝食提供については事前に需要調査を行い、当日に調達した食品を過不足なく提供できるよう努める。家庭で朝食を取ることが可能な児童の利用については、試行期間中に検証する。登校時の安全確保に関しては、教育委員会と緊密に連携し、万全を期していく。スケジュールは、朝の居場所については、1学期の早い時期から区立小学校3校でモデル事業を開始。課題分析と検証後、秋頃を目途に全校展開を目指していく。

問

地域コーディネーターの柔軟な働き方、処遇の改善、属人的にならない取組等について質問を通じて求めたところだ、来年度に向けての検討状況は。

答

来年度に向けて、学校地域コーディネーターの勤務日数や時間の選択肢を増やすことで、柔軟な働き方を可能とするともに、時給の

増額により処遇の改善を図ることとする。学校地域コーディネーターの仕事の一部をアシスタントコーディネーターが担うなど、組織的な運営の周知徹底を行っている。

問

知的障害児者が参加できるようなスポーツ教室やスポーツイベントの実施、障害のある方も障害のない方も一緒にイベントを企画し、パラスポーツやデフスポーツと併せて交流を行うことで普及啓発にもつながると考えられる。こうした知的障害者が参加できるスポーツ、運動、体を動かす機会や交流の機会の提供について区の見解は。

答

区はこれまで、知的障害の方が定期的に運動できる幅広い運動機会の提供を行ってきた。引き続き、知的障害の方も含めて、多くの方が参加できるインクルーシブなスポーツイベントを開催していく。今後も継続して知的障害の方はもとより、障害の有無にかかわらず誰もがスポーツに親しめる環境を創出し全ての人がつながり支え合う共生社会の実現を目指していく。

問

(その他の質問)
・安心安全を守る取り組みについて